ポルトガル語待遇様式について

松　尾　多希子

はじめに

1. 2人の対話で相手を指す言い方を第2人称あるいは対称とよぶ。対称には，英語では you，フランス語では tu と vous，ドイツ語では du と Sie がある。日本語では，2人の人間関係に応じてさまざまな表現がある。人称代名詞だけでも「あなた」「あんた」「きみ」「おまえ」などがあげられ，これらのほかに，相手の姓，名前，姓＋君・さん，名前＋君・さん・ちゃん，職名（例えば「先生」「課長」），職名＋さん（例えば「社長さん」），親族名称（例えば「おとうさん」「おねえさん」）など非常に豊富である。

さて，ポルトガル文法では，話しかける相手を「あなた」とよぶか「先生」とよぶか，つまりどのような対称でもってよぶか，そのよび方を「待遇」（tratamento）と名付けている。「待遇」については，Mattoso Câmara Jr. は，≪はなしことばあるいは書きことばで，聞き手を指す（そしてそれを拡大して話し手を指す）形であって，文法上の2人称一単数 tu，複数 vós ― は，文体上の意図あるいは社会慣用によって，別の「待遇」（tratamento diverso）によって代用されうる。……現代の社会慣用としては，しかしながら，間接的に聞き手の性質あるいは部類を指し，このことによって，3人称における待遇すなわち2人称の間接待遇が決定される≫と説明している[1]。つまり，ポルトガル語では，対称を指すのに，文法上の2人称代名詞（単数 tu，複数 vós）の代りに，聞き手の性質を表わす別の語を用いることがあり，その場合，用いられたこの別の語は文法上は3人称の扱いをうける。聞き手を指す文法上の3人称の待遇を間接待遇（tratamento indirecto）とよぶ。そして「待遇」に用いられる表現を待遇様式（fórmula de tratamento）と称する。

ポルトガル語にはどのような待遇様式があり，それがどのような人間関係，場において使われるかということについて，主として，Luís Rebelo 編 Teatro português，vol. II のうち，1916年から1959年のあいだに上演または発表された，現代を舞台とし，都会人を登場人物としている16篇の戯曲から抽出した対話例を資料に，調べてみた[2]。

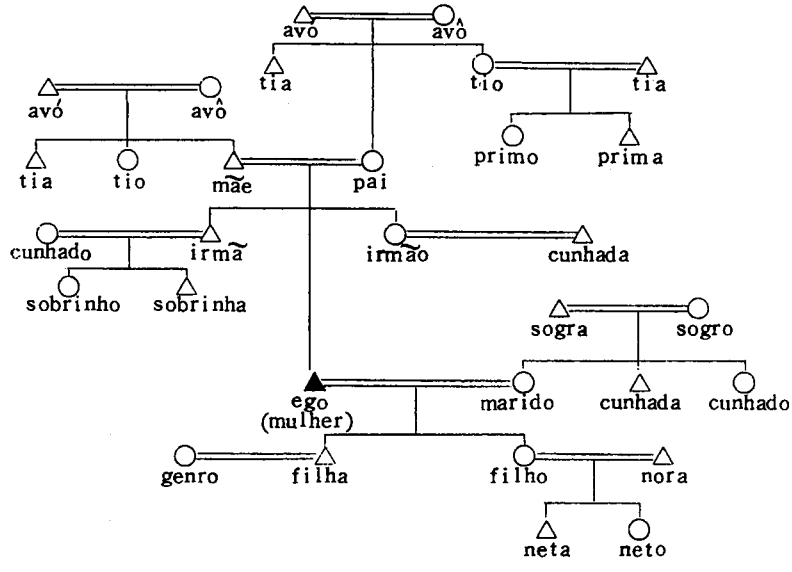
順序として家族内と家族外とに分けてその待遇様式を述べたあとで，待遇様式と呼称（よびかけ）[3]との関係について触れることにする。

家族内の待遇様式

2. ポルトガル語の親族名称は，これを系譜図に配してみれば次のようになる(図1 ―次ページ参照)：夫 marido，妻 mulher，父 pai，母 mãe，兄弟 irmão，姉妹 irmã，おじ tio，おば tia，祖父 avô，祖母 avó，息子 filho，娘 filha，男の孫 neto，女の孫 neta，娘の夫 genro，息子の妻 nora，夫あるいは妻の父 sogro，夫あるいは妻の母 sogra，夫あるいは妻の兄弟 cunhado，夫あるいは妻の姉妹 cunhada，男のいとこ primo，女のいとこ prima，おい sobrinho，めい sobrinha．

3. "Gramática Portuguesa" は，ポルトガル語の待遇様式について次のように述べている[4]：≪同等なもののあいだの親密待遇（tratamiento íntimo）である tu は家族的環境からのみ出るのであって，家族的環境のなかでのみ同年代の人々同志，あるいは年上のも

図1：親族名称　　○：男　△：女　＝：夫婦関係



のから年下のものにたいし用いられる。かくして，親が子を，祖父母が孫を，教父母が教子を，おじ・おばがおい・めいをtuでよぶのにたいし，かれらの大部分は，逆にtuでよばれることを許さない。親族名称をもって3人称でよばなければならない≫。では実際にどのようなルールをもっているのであろうか。以下に，例をあげてひとつひとつの人間関係についてみてみよう。

a）夫　と　妻

わたくしの調べた9例のすべてが，相互的tuを用いている。

例：Mulher：Tu já sabes . . . Para ti é sempre mais caro！（com amargura：）
Nós somos muito ricos！（Leva o lenço aos olhos）
Homem：Não chores. Deixa lá. E pensar eu que . . .
— O homem que se arranjou

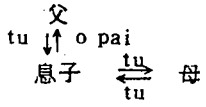
妻：あなたはもう御存知なのね．．．あなたにとっては何でも高いんだわ！（悲しそうに）わたしたち何て金持ちなんでしょう！（ハンカチを目にあてる）
男：泣くんじゃない。ほっとくんだ。わたしがおもうには．．．

b）親　　子

調べた例のすべてにおいて，父あるいは母から子にたいする待遇様式はtuである。これにたいし，子から父あるいは母にたいしては，tuと定冠詞＋親族名称の2通りが見られる。
その内訳は：
子が親をtuでよんでいる例：イ）10才前後の病気の少女→父と母；ロ）20才位の青年→母（離婚し，息子と共に暮らしている）；ハ）30才位の青年→母；ニ）10才前後の病気の少年→母；ホ）20才位の青年→母；ヘ）20才位の女→父と母；ト）20才位の青年→父と母。
子が親を定冠詞＋親族名称でよんでいる例：チ）23才の青年→母；リ）40才位の女→母

；ヌ）20才位の青年→父；ル）30才位の青年→父；オ）18才位の少女→父；ワ）女→老いた母；カ）45才位の男→父（妻以外の女に生ませた子である）

上例のうちロとヌ，ハとルでは子は同一人物。母には tu，父には o pai を用いている。すなわち：



ロとヌの青年は夫と離婚した母と暮らしており，母との関係は極めて密着しており，父とはめったに会う機会がない。母親の影響で父を愛していない。ハとルの青年の父親は数年間外国で療養生活を送ったのち帰宅する。青年と母との間は親密であるのにたいし，父子の間は冷い。オの18才の少女と父にあっては，父は人並外れて尊大で，父娘の気持ちには明らかに疎通がない。非相互的待遇様式を用いているその他の親子の間柄は，みな子の年令が成年以上である以外には特記すべきことはない。

上のことから，親子の間がとくに親密であったり，子供が年若くて病気であったりした場合には，子が親にたいし tu をもってよぶことを親は許していると言えるのではないだろうか。

例1：10才前後の病気の娘と父

Filha：Tu estás triste？ Que tens？

Homem：Nada. E tu como te sentes？ — O Homem que se arranjou

娘：悲しいの？どうしたの？

男：何でもない。ところでおまえ気分はどう？

例2：40才位の娘と母

Ângela：A mãe sempre teve essa mania de meter a ridículo coisas sérias.

Avó：Quando não me quero zangar, tens razão, é o que faço.

— Tempos Modernos

アンジェラ：おかあさんはいつも真面目なことをじょうだんにしてしまうんですもの。

祖母：腹を立てたくないときは，あんたのいうとうりですよ。

c）兄弟姉妹

戯曲集の中に1例だけあったが，この例では相互的 tu を用いる。

例：中年の姉弟

Melo Cantos：Basta！ É preciso acabar com esta reunião de loucos. Diz tu o que sabes ou o que julgas, Etelvina.

Etelvina：（....）E tu, Estêvão, não vês a tua filha？ — Benilde

メロ・カントス：たくさんだ！気狂いどものこんな集りはやめだ。あんたの知っていることあるいは考えていることを言ってくれ，エテルヴィナ。

エテルヴィナ：.... であんたは，エステヴァン，娘を見てないっていうの？

兄弟姉妹は通常相互的 tu であるが，年令が相当離れているような場合には，兄姉が弟妹を tu でよぶのにたいし，弟妹は兄姉を o mano（おにいさん），a mana（おねえさん）とよぶことがある。なお，mano，mana はスペイン語の hermano（兄弟），hermana（姉妹）の借用語ともいわれ[5]，irmão，irmã と同じ意味であるが，待遇様式としては irmão，irmã ではなくて，mano，mana を用いる。

例：O mano não vai？ おにいさんは行かないの？（兄にたいし）

Não gosto da mana. おねえさんなんか嫌いよ。（姉にたいし）

d) 祖父母と孫

祖母と孫の対話が２例あった。その２例とも祖母は孫を tu で，孫は祖母を定冠詞＋親族名称（a avó）でよんでいる。

例：Luís（pega nas fotografias e não as deixa mostrar）：Um momento！Quero preparar a avó para ver estas fotografias. Vi outro dia, uma fotografia sua, tirada há 50 anos numa praia. A avó está de calça comprida ...

.....

Avó：Fazes bem em ajudar os fracos .... — Tempos Modernos

ルイス：（写真を手にして見せない）：ちょっと待って！この写真をおばあさんが見る準備をして欲しいな。この前おばあさんの５０年前の写真を見たよ。おばあさんは長いスラックスをはいていた。

....

祖母：弱いものを助けるのはいいことですよ。

e) おじおばとおいめい

３例とも，おじおばはおいめいにたいし tu，おいめいはおじおばにたいし定冠詞＋親族名称を用いている。

例：おばとめい

Benilde：Dá licença, minha tia？

Etelvina：Entra, fazes favor.

Benilde（entra, aproxima-se da tia）：A tia mandou-me chamar？ — Benilde

ベニルデ：入ってよろしいですか，おばさま？

エテルヴィナ：どうぞお入り。

ベニルデ：（入り，おばに近づく）おばさまがわたしをよばせたのですか？

f) しゅうと・しゅうとめとむこ・嫁

しゅうと・しゅうとめはむこ・嫁にたいし tu，むこ・嫁はしゅうと・しゅうとめにたいし o pai，a mãe を用いる。親族関係からいうと，しゅうとは sogro，しゅうとめは sogra であるが，真実の親にたいすると同じ待遇様式を用いる。

例１：しゅうとと嫁

Maria Helena：Mas o pai entende que está assim muita coisa？

Raul（com lentidão）：Muitas mais do que tu julgas. — O Ausente

マリア・エレナ：だけどおとうさまはそういうことが多いと思いまして？

ラウル（ゆっくりと）：おまえが考えているよりずっと多いよ。

１例にあっては，しゅうとめが嫁を tu でよぶのにたいし，嫁はしゅうとめをしゅうとめの身分（この場合は「侯爵夫人」）をもってよんでいる。

例２：Marquesa：Mas explica-te com clareza！ Não percebo que possa ter esse desequilíbrio com o teu silêncio！

.....

Graça： Sim, a senhora Marquesa conhece o Octávio como filho；・・・・
— Octavio

侯爵夫人：だけどあんたの考えをはっきり説明しなさいよ。このおかしなことがあんたが黙っていることと関係があるなんてわからないわ！

・・・・・・・

グラサ：えゝそうですわ！侯爵夫人さまはオクタヴィオを息子としては御存知ですけれど。

a senhora Marquesa は，のちに述べるように，親密ではない間柄の人にたいする待遇様式である。ポルトガル上流社会では，しゅうと・しゅうとめとむこ・嫁の間の待遇様式は，しばしば結婚前に用いられていたものがそのまま続けられることがあり，それが上流社会に属していることのシンボルのひとつになると考えられることもあるという[6]。上例は，この上流社会の慣用にならったものであろう。

g) いとこ同志

3例のすべてが相互的tuを用いている。これらの例では，みな対話者が同年代に属している。年令に大きな隔差のある場合には，別の待遇様式の用いられることが予想される。

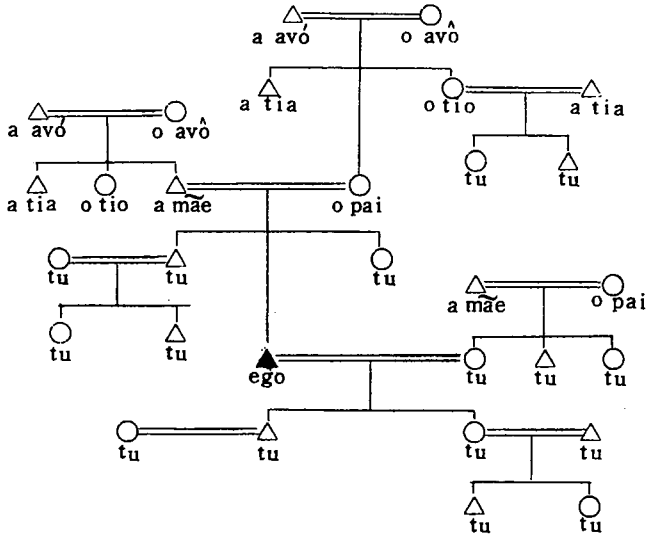
例： Benilde：・・・・・・・ Já te disse que o nosso casamento é impossível.
Eduardo：Pois já！ Mas não te acreditei.・・・・・ — Benilde

ベニルデ：・・・・・・ わたしたちは結婚できないともうあんたに言ったはずよ。

エドアルド：あゝそうだよ！だけどきみの言うことをぼくは信じちゃいなかった。

以上見てきた家族内の待遇様式を図1にしたがって図示すると次のようになる（図2）：

図2：家族内の待遇様式



家族外の待遇様式

4. tu

先に述べたとおり，tuは家族的環境のなかでのみ，同年代の人々同志，あるいは年上のも

のから年下のものにたいし用いられるが，家族以外には全く用いられないというわけではない。家族同様に親密な間柄にあるものであって，ほゞ同年代に属するもの同志，あるいは年上のものから年下のものにたいし，tu が用いられる。

a）恋　　人

6例のうちで相互的 tu を用いているのが5例，他の1例は você あるいは定冠詞＋名である。

例1：相互的 tu

Júlia：Manuel！ Ouve uma coisa que te quero dizer. ····

Manuel：Agora，Já não tens receio de coisa nenhuma？　　— Alfama

ジュリア：マヌエル！あんたに言いたいことがあるのよ。

マヌエル：もう今じゃ何もこわくないのかい？

今まで普通の交際をしていた男女が恋の告白をしたあとで，tu を使うようになる次の例は3人称待遇様式と tu との差を示しているといえるだろう。

例2：Ele：Também eu，Matilde. Se você soubesse ····

Ela（encorajando-o）：O quê？ Diga！

Ele：Tudo o que a Matilde significa para mim ····

Ela：É isso mesmo，Carlos. Parece que nunca deixámos de nos conhecer ···

Ele（Puxando-a contra si e beijando-lhe os cabelos）：E nos teus cabelos，Matilde ··　　— O dia seguinte

かれ：ぼくだって，マティルデ，もしきみがわかってくれたら····

かの女（かれをはげまし）：何なの？言って！

かれ：ぼくにマティルデが言うことみんな···

かの女：そのとおりよ，カルロス。わたしたち会わずにはいなかったみたいだわ···

かれ（かの女を引き寄せ，その髪に接吻する）：おまえの髪に，マティルデ···

男は女を você，a Matilde と3人称の待遇様式を用いていたが，髪に接吻したあとは，これが tu に変っている。

別の例では，Maria Antónia と Duarte の2人の男女が，実は愛人関係にあるのだが，他の人はこれを知らない。Maria Antónia の夫や他の人が同席しているところでは，相互に3人称待遇様式を用いているが，2人だけの対話では相互に tu を用いる。

例3：Duarte：A Maria Antónia já viu o Browning sem a mulher？

Maria Antónia：Já，quando ela anda consigo.　　— O Ausente

ドアルテ：マリア・アントニアさんはブラウニングさんが奥さんといっしょでないのを見たことがありますか？

マリア・アントニア：えゝ，奥さんがあなたといっしょのときに。

ここでは，2人とも3人称待遇様式，a Maria Antónia，consigo を用いている。ところで2人きりになると相互に tu を用いている。

例4：Maria Antónia：·····，farei tudo para ir，juro-te. Espera só até amanhã. Depois veremos.

Duarte： Faço - te a vontade, querida. Mas tu prometes：・・・— O Ausente
マリア・アントニア：・・・・ 行くためにはどんなことでもするわ。あなたに誓うわ。明日まで待ってちょうだい。あとで会いましょう。
ドアルテ：きみの好きなようにしてあげるよ。だけどきみは約束してくれるね・・・・・・

b) 同年代で同性の親しい友達，仕事上の仲間
例： Gil：E o que te sugeriu essa necessidade？
Octávio： Eu te digo・・・・ — Octávio
ジル：で，その必要というのはきみにとってどんな意味があったんだ？
オクタヴィオ：きみに言うけど・・・・

戯曲"O Ausente"の中で，同じ親しい友だちのグループで，同性にはtu，異性には3人称待遇様式を用いている例がある。恋人たちの例でも見られたとおり，家族外の異性間に用いられるtuには，ある種の特別な意味が含まれるようにおもう。わたくし自身の経験では，同じ下宿人として1年近くいっしょに暮しながら，異性の学生からはついに最後までtuとよばれなかったかと思えば，2・3度お茶をのんだ程度で，「tuとよんでよいか」ときかれ，以後相互にtuを用いるようになった例がある。

c) 上下の力関係が判然としている場合，力関係の上のものから下のものへ一方的にtuが用いられることがある。上下の力関係が判然としているもっともよい例は，主人と召使の関係であろう。わたくしの調べた6例のうちの2例において，召使にたいしtuが用いられている。あとの4例では召使は3人称で扱われている。tuで召使をよんでいる1例は，18才位の少女と老女中との関係であり，亡き母親の代から仕えている老女中は少女にとってはもっとも身近な家族のひとりである[7]。この例におけるtuは，たんに主人と召使との関係というよりむしろきわめて親密度の高い場合のtuといえるのではないかとおもう。わたくしがCoimbraでMedeiros教授から伺ったところでは，召使にどの待遇様式を用いるかは，その召使がいつその家に仕えはじめたかによる。召使がまだ年若いころに奉公しはじめた場合にはtuでよび，成人に達してから奉公しはじめた場合には3人称でよぶことが多い，とのことであった。

軍隊で将校は兵卒をtuでよぶ[8]。小・中学校で教師は生徒にたいしtuを用いる。中学校（7年制のリセ）では，教師は5年生までの生徒にはtuを用いるが，それ以後には3人称を用いるという[9]。ポルトガルの中学校は，一般教育を施すのは5年までであって，6・7年は大学進学コースになっている。したがって6・7年に在学するものは未来のエリートであるわけで，5年までの有象無象の生徒とは，社会的に明確な区別がなされている。5年を境にして，教師の生徒にたいする待遇様式が異るのは，このような事情が反映されているのではないかとおもう。

主人と召使というように力の上下関係がかなりはっきりしているような場合ですら，主人から召使にたいし必らずしもtuが用いられないということ，および，軍隊における将校たい兵卒，学校における教師たい生徒のように身分が固定し，支配関係が容易に打破しがたいまでに客観的に明確に組織立てられている場合にtuが用いられるということは，力関係の上下から出るtuの使用範囲がごく限られていることを示しているといえよう。

5. 定冠詞＋名

同じ社会的範ちゅうと年代に属するものであって，ある程度の親密感と信頼感を分かち合うもののあいだでもっとも一般的に用いられる。

a) 友　　人

例１：年令・社会的地位ともに対等な同性の友人同志

Duarte : .... O Raul como está ?

Raul : Bem, obrigado. E você ?　　— O Ausente

ドアルテ：どうですか？

ラウル：お蔭様で。ところできみは？

例２：少女と娼婦

Filha : A Leonor sabe .... aquele rapaz aqui do lado .....

— O Homem que se arranjou

娘：レオノールさんも御存知でしょう...こちら側のあの男の子.....

レオノールは２５才位。「娘」は１０才位の少女。少女は，病気の自分に親切にしてくれた娼婦レオノールのうちに心からの友人を見出し，レオノールを親しい友だち扱いしている。a Leonor という待遇様式には，そのような作者の意図が表現されている。

b）力関係の上のものから下のものにたいし非常にしばしば用いられる。

例１：Dr. Fabrício : Vejamos, Benilde ! .... E tudo se passará entre nós, se a Benilde quiser ser sincera connosco ....　　— Benilde

ファブリシオ医師：さあベニルデ！　すべて，ことはわたしたちのあいだだけですんでしまうんだよ，もしベニルデさんがほんとうのことを言ってくれれば....

ファブリシオ医師とベニルデ（１８才位の少女）との対話。ファブリシオ医師はベニルデを赤ん坊のときから知っている。たんなる医者と患者以上に両者のあいだは親しいが，年令に隔差がある。

例２：Genoveva : Não sei ! O Sr. Doutor não faça caso. ....

Dr. Fabrício : A Genoveva disse-me há pouco que já desabafou com o Sr. Pe. Cristóvão.　　— Benilde

ジェノヴェーヴァ：わかりません！先生はどうぞ気になさらないでください。....

ファブリシオ医師：クリストヴァン神父さんにもう打ち明けたって，ジェノヴェーヴァさんはちょっとまえに言いましたね。

ジェノヴェーヴァはカントス家の老女中。ファブリシオ医師は同家出入りの医者。旧知の間柄である。医師の老女中にたいする a Genoveva という待遇様式は，社会的地位に隔差があるがある程度の親密感を伴う間柄を示している。tu を用いない場合の主人から召使にたいする待遇様式は，この範ちゅうに含まれる。

6. você

você は，前項の定冠詞＋名とほとんど同じ価値をもち，形が単純であるため，近年，定冠詞＋名に代ってますます使用度が高くなってきている。você は，vossa mercê（２人称

複数所有代名詞女性形＋名詞）が音韻変化を遂げたものである。その歴史を簡単に述べると，vossa mercê は，２人称代名詞複数形 vós と並ぶ国王にたいする待遇様式として XV 世紀に出現し，同世紀末には vós を圧倒するにいたり，同時に，貴族，ある種の公職についているものや社会的地位の高いものにたいする待遇様式へとその使用範囲が拡大していった。そしてXVI 世紀には家庭において子から親への尊称として用いられるまでになった。[10] このようにして民衆の口にのぼるようになった vossa mercê は，vossemecê を経て você となり，かつての敬意表現としての輝きをすべて失い，話し手と同等あるいは以下のものにたいする待遇様式となった。[11]

você が定冠詞＋名とほぼ同じ価値をもつことを示すものとして，同じ２人の対話のなかで，両様式が混用されている例をひとつあげておこう。

例： Dr. Fabrício： Mas que desconfiança tem você, criatura？！
Genoveva： Não sei！ O Sr. Doutor não faça caso. .....
Dr. Fabrício： A Genoveva disse-me há pouco que já ..... — Benilde

ファブリシオ医師はジェノヴェーヴァを você と呼んだり a Genoveva とよんだりしている。

7. O senhor (a senhora)

フランス語の vous，ドイツ語の Sie にほぼ該当する。親密でない人にたいするもっとも一般的な待遇様式。女性形は a senhora。

a) 相手についての知識 — 姓名，職業など — をまったくもっていない場合

例：Porteira： Muito bom dia .... Que há-de querer o senhor？
Amigo： A senhora podia informar-me se mora aqui no prédio o Sr. Teixeira？
— O Homem que se arranjou

女門番：こんにちわ.....何のご用ですか。
友：この建物にテイシェイラさんが住んでいるかどうか教えてくれますか。

b) 相手の姓名，職業，身分などを知っていても，それを意識しない場合には，通常 o senhor，a senhora を用いる。

例： Médico：.... Tu acreditas em Deus e nos santos？
Filha： Está claro, que acredito ... Eu não sou hereje como o senhor.
— O Homem que se arranjou

医者：きみは神さまや聖者を信じるかい？
娘：もちろん信じるわ.... わたしはあなたみたいに不信心じゃありませんもの。

これは医者と患者（１０才位の少女）との対話。少女は医者を o senhor とよんでいる。別のところでは o doutor（先生）ともよんでいる。

c) 召使から主人にたいして

"senhor" には普通名詞として「領主」や「主人」の意味があり，召使から主人にたいする待遇様式として用いられる場合には「御主人様」「旦那様」とでも訳せようか。女性にたいしては a senhora が用いられる。なお女主人 a senhora と区別して，主家の娘にたいし a menina を用いることがある。本来 a senhora は既婚・未婚を問わず女性にたいする待遇様式であるが，家族的環境にあっては，未婚の女性にたいしてこの a menina が使

われることがある。わたくしの経験では，下宿のおばさんが下宿人にたいし，商店の店員が若い女性客にたいし a menina とよぶのをたびたび耳にした。ちょうど日本語で，「お嬢さん」というのにあたるのではないかとおもう。

例1： Criada (entrando)： A senhora deseja que ponha o jantar na mesa? Jantam só os senhores; não é verdade ? — O Ausente

女中（入ってきて）：テーブルに夕食の用意をいたしましょうか。御主人さま方だけで召しあがるんでございますね。

女主人にたいする女中の質問である。ここでは a senhora, os senhores は，「奥さまあなた」，「御主人さま方あなた方」の意。

例2： Benilde： Vê lá se vais mentir, Genoveva. . . . .

Genoveva： Eu já tinha dito à menina que ia pedir ao Sr. Doutor para vir cá vê-la. — Benilde

ベニルデ：おまえ嘘をついているんでしょう，ジェノヴェーヴァ。

ジェノヴェーヴァ：お嬢さまを診にここにおいでいただくよう先生にお願いすると，お嬢さまにはもう申しあげたはずでございますよ。

8. o senhor (a senhora)＋姓・名あるいは職業あるいは社会的身分

相手の姓・名，職業，身分，地位などを知っていて，それが意識される場合には，本項の待遇様式を用いる。

o senhor ＋ 姓・名の待遇様式の場合，通常男性については o senhor ＋姓，女性については a senhora ＋名である。「・・・夫人」と言いたい場合には a senhora＋夫の姓とする。

例1：Mulher：É que, a senhora Júlia sabe ・・・ todos têm os seus atrasos, as suas faltas ・・・

Porteira (num espanto)： Ao prego ! — O Homem que se arranjou

女：ジュリアさんもおわかりでしょう・・・ だれだって支払いが遅れるとかお金がつまるということが・・・

女門番（びっくりして）：質入れするんですって！

さて女性にたいする a senhora ＋名 の待遇様式には次のようなヴァリエーションがある：

・a senhora Dona ＋名

上流社会の女性にたいし用いられる。

例2：中年の有閑マダムとかの女の親しい女友だちのおいとの対話。

Luís (com espanto divertido)： A senhora D. Pilar não lava a cara ?

Pilar： Com água, não ! Deus me livre ・・・ — Tempos Modernos

ルイス（面白半分にびっくりして）：ピラールさんは顔を洗わないんですか？

ピラール：水ではね！とんでもないわ・・・

・Dona ＋名

下層階級の女性 — 例えば顔見知りの洗濯女，魚売りの女など — にたいして用いられることが多い。

例3： D. Ana está hoje mal disposta？
アナさんはきょう気分がわるいの？

話しかける相手が職業，学位，貴族の爵位などをもっていて，話し手がそれを意識する場合には，次のような待遇様式を用いる： o senhor arquitecto（建築家にたいし），o senhor doutor（学位をもっている人に），o senhor Dr.（大学卒業者に），o senhor engenheiro（大学工学部卒業者に），o senhor embaixador（大使に），o senhor padre（神父に），o senhor marquês（侯爵に），o senhor polícia（警官に）。
例4： O senhor Marquês gosta do Douro？
侯爵さんはドーロ河がお好きですか。
例2： A senhora Embaixatriz passou bem？
お元気でいらっしゃいますか。

ところで，o senhor（a senhora）＋職業あるいは身分称号は，その職業や身分が社会的に高い評価をうけているものであれば，敬意度は高くなるが，低い場合には逆の効果をうむことになる。a senhora lavadeira（洗濯女さん），a senhora criada（お女中）という表現が用いられていないのはこのような理由によるのであろうか。

ドクターの称号は，医者と学位所持者のほかに，ポルトガルでは大学卒業者（たゞし工学部卒業者には engenheiro を用いる）にも使われる。学位所持者は doutor，大学卒業者は Dr. というように書きことばでは両者を区別するが，話しことばではおなじになる。o senhor Dr. は o senhor よりも敬意度が格段に高い。

9. o senhor（a senhora）＋職業あるいは学位あるいは社会的身分＋姓
前項と比べて待遇様式の価値にかわりはないようである。
例：老女中と神父
Pe. Cristóvão： Saberás tu dizer-me quais？
Genoveva： O Sr. Pe. Cristóvão bem conhece que eu sou uma ignorante. ...
クリストヴァン神父：あんたはわたしに何を言おうというのかね。
ジェノヴェーヴァ：クリストヴァン神父さまは，わたしが無知な女だということを御承知です。...

10. 定冠詞＋学位あるいは職業あるいは社会的身分
これは8項，9項よりも敬意度は低い。例えば，戯曲 Benilde のなかで，老女中ジェノヴェーヴァはファブリシオ医師を o sr. Doutor とよんでいるが，クリストヴァン神父は医師を o Doutor とよび sr. をつけない。同様に，ジェノヴェーヴァは神父を o sr. Padre Cristóvão とよぶのにたいし，ファブリシオ医師はたんに o Padre Cristóvão とよぶ。これは明らかに，老女中たい医師あるいは神父と医師たい神父とのあいだに人間関係の差異があることを示している。

11. Vossa Excelência
ある種の高い社会的地位を占める人にたいするもっともていねいな待遇様式である。今日では，日常会話のなかではほとんど用いられなくなっているが，身分上大きな隔差がある場合にまだ使われているようである。コインブラ大学学位取得面接試験で受験者は試験官を Vo-

ssa Excelência とよぶともきいている。

例1：青年と男爵夫人

Gil： Há muitas excepções, senhora Baronesa! Muitas! Vossa Excelência é cruel para com o sexo forte . . . — Octávio

ジル：例外がたくさんございますよ，男爵夫人！たくさん！あなたさまは男性には手酷くていらっしゃる．．．．

例2：召使が主人をこの様式でよんでいる例が1例ある。

Criado： Vossa Excelência dá licença?

Gonçalo： Que é? — Um homem só

下男：よろしゅうございますか。

ゴンサロ：何だい。

待遇様式と呼称との関係

12. 代名詞に尊称，卑称の別のない英語にも，呼称（vocative）には話し手と聞き手との人間関係が如実に表われるという[12]。ポルトガル語について，今まで述べてきた待遇様式と呼称との関係を調べたところ，次のような対応を示すことがわかった（表1，2）：

表1：家族内

＜待遇様式＞	＜呼称＞
tu	名
定冠詞＋親族名称	親族名称；所有代名詞＋親族名称；親族名称＋名

表2：家族外

＜待遇様式＞	＜呼称＞
tu	名
você	名
o senhor	senhor ； senhor＋姓あるいは職業あるいは身分あるいは学位
o senhor＋姓あるいは職業あるいは身分あるいは学位	senhor ＋姓あるいは職業あるいは身分あるいは学位
vossa excelência	上欄に同じ。たゞし女性の場合は minha senhora
a senhora	senhora ； senhora＋名； D.＋名
a senhora D.＋名	senhora D.＋名；minha senhora
D.＋名	D.＋名

これら2表は，左欄の待遇様式を用いるような人間関係にある人に呼称を使うとしたら，それに該当する右欄の呼称を用いる，という意味である。例えば，老女中ジェノヴェーヴァはクリストヴァン神父にたいする文中の待遇様式として o Sr. Padre Cristóvão を用い，呼称には Sr. Padre Cristóvão の形を用いる。

例1： Genoveva： Não entendo muito bem o que o Sr. Pe. Cristóvão diz.

ジェノヴェーヴァ：クリストヴァン神父さまのおっしゃることはわたくしにはよくわかりません。
Genoveva : Não diga isso, Sr. Pe. Cristóvão.
ジェノヴェーヴァ：それをおっしゃらないでください，クリストヴァン神父さま。

「o senhor＋姓あるいは職業あるいは身分あるいは学位」の待遇様式を文中に用いる場合には，文末に呼称としてこれをくり返すことは少ない。ポルトガル語の文は主語を表現しないことが可能である。とくに会話で，主語を表現せずに3人称動詞を用いる場合には，動詞の主語となるべき待遇様式に相当する呼称を文末に付加する。

待遇様式に vossa excelência を用いる場合，その職業・身分・学位を知っているときには必らず呼称としてこれを付加する。女性には minha senhora を付加する。
例2： Como está Vossa Excelência, Senhor Embaixador?
ごきげんいかゞですか，大使さん。
例2： Vossa Excelência já viu, Senhor Ministro?
あなたさまはもうごらんになられましたか，大臣殿。
Que deseja Vossa Excelência, minha senhora?
何をあなたさまはお望みでいらっしゃいますか，奥さま（あるいはお嬢さま）。

待遇様式と呼称に現われる感情表現

13. 以上述べてきた待遇のルールにはずれた場合，あるいは同一の人間関係にあって待遇に変化がある場合には，一時的感情の表現と見ることができる。
例1：妻以外の女にうませた息子 Carlos を父親の Alberto は愛していたが，息子は父親の愛を無視している。が，ある事件をきっかけに父の本心を知った Carlos は Alberto の愛をうけいれる。父の愛を拒否していたあいだの Carlos の Albertoにたいする待遇様式は o senhor，愛をうけいれたのちは o pai（Um homem só）。
例2：離婚した母 Ângela の恋人 Valadares を，母をとられてしまうような気がして，息子 Rui は好いていない。ある日，とうとう Rui は母の恋人に面とむかって結婚反対を唱える。
Ângela と Valadares のいるところに Rui が入ってきたときには，Valadares の Rui にたいする呼称は，親しいものへの呼称，Rui である：
Valadares（simulando grande a vontade）：Como está, Rui?
ヴァラダレス（気楽なふりをして）：元気かい，ルイ。
会話が進行してゆくうち，ついにルイが母に結婚しないでくれと頼んだときの，ヴァラダレスのルイへの呼称は，まったく別のものとなる：
Ângela： Sim, meu filho .... Podes pedir-me o que quiseres. ....
Rui： Não quero ver-te mulher doutro homem ... Peço-te!
Valadares（com amarga ironia）：Senhor Rui de Castro, chegou a ocasião de eu dizer： existem alegrias que as pessoas estranhas acham ridículas. Estou nesse caso. — Tempos Modernos
アンジェラ：えゝ，息子よ .... 言いたいことがあったらお言い！
ルイ：おかあさんが他の男の妻になるのを見たくないんだ。お願いだ！
ヴァラダレス（苦々しい皮肉をこめて）：ルイ・デ・カストロさん。こんどはわたしが言う

番です。他の人が見たらこっけいだと思うような喜びがこの世にはあるものだということを。わたしの場合がそれでした。

身近なものにたいする呼称 Rui から，もっともていねいな呼称 Sr. Rui de Castro への移行のなかに，ヴァラダレスの憤り，皮肉の感情の大きな高まりがこめられ，この一言が事態の転回を決定的にしている。

例3：妻は夫が勝手に約束してきたパーティーに行きたくない。しかし夫は行くことを強いる。

António Pedro：.... e agora vai-te arranjar, se ainda te sobejar algum vestido ; .... E não demores muito ; .... Não te esqueças de telefonar à Graça.

Maria Helena (saindo) : V. Exa. ordena ....　　— O Ausente

アントニオ・ペドロ：.... さあ，おまえは仕度をしなさい，まだドレスがどれか残っているならね。.... あんまり時間がかからないようにしてくれよ。.... グラサに忘れずに電話をしろよ。

マリア・エレナ（退場しながら）：旦那さまの御命令....

夫にまくしたてられた妻は，通常 tu を用いるところに最敬称を用いることによって，ピリッとした皮肉をきかせている。

おわりに

14. フランス語やドイツ語などにおいては，尊称卑称の使い分けと，それを使う人のイデオロギーやその人の属する社会範ちゅうなどとのあいだには密接な関係があり，若い世代や進歩的イデオロギーをもつ人ほど，卑称を聞き手にたいし用いる傾向が強いという。[13] おそらく，ポルトガル語についても同じことが言えるであろう。

待遇様式と人間関係との関係は，時間的，空間的に固定したものではなく，個人個人の思想，属する社会，立場によってかなりゆれがあるはずであって，わたくしが述べてきたところは，そのごく大筋に過ぎない。扱ったデータがこのような研究対象とするにはきわめて少なく，しかもデータのバックが，社会的変動の急速な現代にあっては，いささか時間的に広範に過ぎる憾みがある。このような理由からも，現に行われている実際の待遇とはいろいろずれがあろうと推測する。しかし，ともかく，ポルトガルにおける待遇様式の多様性，待遇様式と人間関係とのかかわりあいについて，できるだけデータに忠実に叙述したつもりである。

ポルトガル語の待遇は，他のヨーロッパ語には存在しない，特殊な言語慣習であろうとおもう。日本語の待遇表現（人称代名詞の範ちゅうの）と対照するとき，そこにある種の対応関係が見られるのは偶然であろうか。

〔注〕

1) J. Mattoso Câmara Jr., Dicionário de Filologia e Gramática. p.343. Gramática Portuguesa (Pilar Vazquez Cuesta y Maria Albertina Mendes da Luz) は，tratamiento という用語をたんに聞き手についてだけでなく，すべての人称について用いるものと考えているようである。(p.434)

2) １９１６年から１９５９年に時代を切ったのは，第一次世界大戦前後がヨーロッパ社

会のひとつの転換期であると考えたからである。利用できる戯曲が豊富にあれば，第二次大戦後から現在にいたるものだけに限りたかったが，そうすると資料があまりに少なくなってしまうので，１９１６年にまでさかのぼることにした。

3) Gramática Portuguesa は「第２人称の待遇」のなかに呼称を含めている。また，Fórmulas de Tratamento no Português Arcaico (Marilina dos Santos Luz) も，対称と呼称とをともに待遇様式として扱い，両者の区別をつけていない。この小論でわたくしは，文中に用いられる聞き手を指す表現を「待遇様式」，文の構成要素を成さないいわゆる呼びかけを「呼称」として，別々に扱うことにする。

4) Gramática Portuguesa, p.434.

5) Dicionário Prático Ilustrado.

6) informant として協力して下さった Pedro Canavarro 氏（現在リスボン大学文学部助教授）の情報による。

7) 戯曲 "Benilde" のなかの Benilde と Genoveva.

8) Gramática Portuguesa, p.435.

9) コインブラ大学文学部 Walter de Sousa Medeiros 教授の講義で伺った。

10) Marilina dos Santos Luz の前掲書 pp.24～107 & 234.

11) Said Ali, Gramática Histórica, p.93.

12) Roger Brown and Marguerite Ford, Address in American English.

13) Roger Brown and Albert Gilman, the Pronouns of Power and Solidarity.